

単元名 見積もりを使って

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 100や1000などのまとまりをつくる見積もりの仕方を理解し、100や1000などのまとまりをつかって、合計を見積もることができる。
(2) およその数が分かればよい場面において、見積もりの有用性を考えることができる。
(3) 100や1000などのまとまりをつかって、合計を見積もろうとする。

標準的な展開例

04040210_001

【準備等】電卓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 100や1000などのまとまりをつかって、合計を見積もる [p. 54・p. 55]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた缶の個数がおよそ何個になるかを考える。 ○集めた缶の実際の個数と見積もった数を比べる。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★まとまりをつかって考えよう。 ○コース1周はおよそ何kmになるかを考える。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見積もりの有用性を理解し、細かい計算をせず、まとまりをつかって合計を見積もる方法について考えさせる。 ・およそ100のまとまりをつかって考えればよいことに気付かせる。 ・実際の個数を電卓で計算し、見積もりの有用性を確認させる。 ・およそ1000のまとまりをつかって考えさせる実際の距離を電卓で計算し、見積もりとの差を確認する。 <p>【評】見積もりを計算する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【備 考】

和・差・積を電卓で求めてそれを概数に直すことについては、本学年の単元「およその数」で既に学習している。本単元では、その内容をさらに深め、目的に応じた和・差・積・商の概算の仕方を学習する。電卓を効果的に使い、概算のよさが感じられるように指導する必要がある。